

ＪＡ菊池とＪＡ阿蘇の資源循環型農業推進について

平成 16 年 9 月 21 日

農政部経営技術課・畜産振興課

1 目的

今回の取り組みは、安全・安心な農畜産物生産を目的に、両地域の有する地域資源を相互に流通させ、連携して地域間資源循環型農業を推進していこうとするものである。

2 具体的取り組み

(1) 堆肥資源の活用

菊池地域は、県内の家畜頭数の約 4 割を占める畜産地帯であり、豊富な有機資源としての堆肥が生産されている。この堆肥を阿蘇地域の土づくりに活用する。

表 1 熊本県における堆肥の需給バランス(試算)

(2) 稲わら資源の活用

阿蘇地域においては、約 5,700ha の水稻が作付けされ、その副産物として約 2 万 8 千トンの稲わらが産出されており、菊池地域の肥育牛等の飼料として有効活用する。

参考

- ・県内においては、米の副産物である稲わらが平成 15 年で約 25 万 6 千トン程度産出されている。その内、飼料利用は約 33% の 8 万 3 千トンと推定され、その他はすき込みや焼却されている。
- ・稲わらは、肉用肥育牛を中心に牛の飼料として利用されるが、一部に輸入わらも利用されている。
- ・平成 12 年に国内で口蹄疫が発生し、その原因について「輸入粗飼料の可能性が ある。」とされたため、国産稲わらの利用を推進しているところである。
平成 14 年 3 月から稲わらの輸入は停止されたが、15 年 1 月解禁され、最近、増加傾向にあり、国産稲わらの安定的な確保が必要となっている。

(3) 阿蘇地域における草資源の利用促進

- ・阿蘇草原の牧草や野草の草飼料としての利用や牛の放牧などについて、菊池と阿蘇が連携して有効活用するにより、草原の維持・保全に取り組む。

(4) 資源循環型農産物の協調連携販売

- ・堆肥による土づくり、そこから生産された農産物の相互の地産地消を促進する。
菊池においては、「きくちのまんま」、阿蘇においては、「まるごと阿蘇」ブランドの農産物づくりを目指しており、相互の地域条件を活かして、直売店等での販売体制についても協力していくこととしている。